

E F ぼとうかんのん じょうやとう
馬頭観音と常夜灯

旅の安全を祈る「馬頭観音」や「常夜灯」は下街道でも随所で見られ、古い街道の愛称といえます。鉄道開通以前の主要交通手段として馬が活躍した名残を感じます。「常夜灯」の明かりを灯すことは道中の安全を祈る村民の奉仕の証でもあります。街道沿いだけでなく、有力者が社寺に寄進したものなど、数多く残されています。



所要時間
約1時間30分
距離
約6.1 km

G よこいやゆう うつつ づか
横井也右と内津のすみれ塚

俳人の横井也右は尾張藩の有力藩士で、若くして俳諧の名手として知られた人物です。隠居後、内津への旅の紀行「内津草」を著しました。内々神社の東側の丘には、也右が揮毫した芭蕉の句「山路来て何やらゆかしすみれ塚」など江戸時代の句碑が6基あり、「すみれ塚」と呼ばれています。これらの句碑は、也右に献酬していた内津の俳人の長谷川三止らが建てたものです。



春日井の下街道ガイドマップ

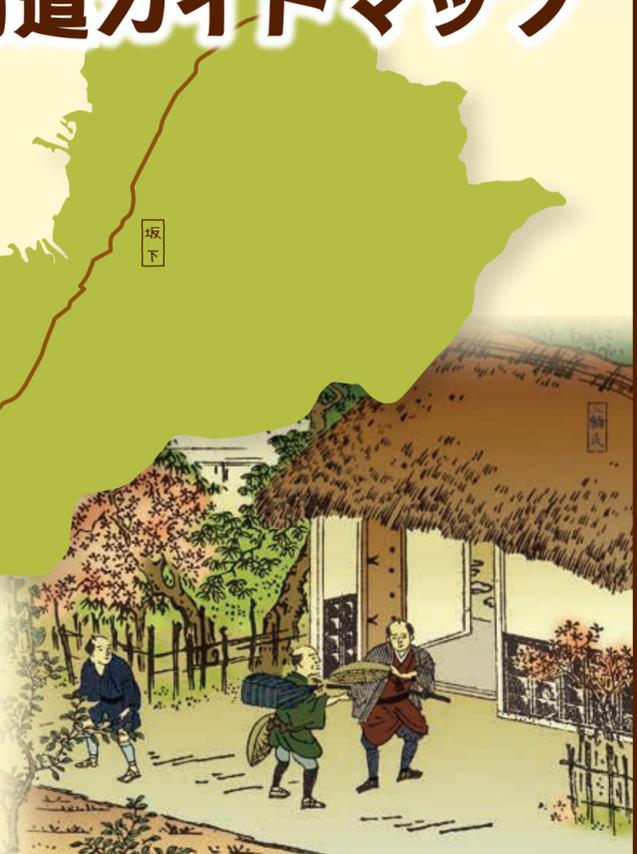
編集・発行 春日井市教育委員会文化財課
協力 春日井文化財ボランティアの会
平成28年3月31日 発行
令和7年3月31日 改訂
表紙絵図/尾張名所圖会より引用し着色



春日井の下街道ガイドマップ

春日井市内を通る下街道（したかいどう）は、ほぼ現在の県道内津勝川線にあたり、名古屋から勝川・坂下・内津などを通り、岐阜県へと続く街道です。

江戸時代には名古屋城下と中山道をつなぐ道として、たくさんの商人や旅人が行き交い、庶民の道として栄えました。旅人たちは、伊勢参りや木曾御嶽山・信濃善光寺参り、京都、大阪、江戸に行き来するために、この街道を利用しました。



<p>25 さかした まちな 坂下の町並み</p> <p>札の辻の角から北東へしばらく昔の面影を残す町並みが続き、黒屋・米屋などの旅籠跡があり、明治の終わりから昭和の初めにかけて栄えた製糸工場跡などの案内の札が立てられています。</p>	<p>26 さかした どうりょう じょうやとう 坂下の道標と常夜灯</p> <p>下街道の別名「善光寺街道」をしのぶ道標が2つあります。自然石の道標には「右江戸せんこうし左さくみち大山」と刻字されています。すぐ横には弘化4年(1847)の刻字がある秋葉山の常夜灯があります。</p>	<p>27 ばんしゅじ 萬壽寺</p> <p>文亀元年(1501)の創建で、元は下野村にありました。明治天皇の御巡幸の際には行在所(昼食場所)になり、現在は標柱が立てられています。本堂は大正元年(1912)(1847)の刻字がある秋葉山の常夜灯が建てられました。</p>	<p>28 みたらし 御手洗</p> <p>日本武尊が東征の帰り道、手を洗ったという伝説が残る池で、ほこらがあり、山の神もまつられています。かつては、この水で眼を洗えば眼病が治り、手を洗えばアハギしが治ると伝えられ、お参りの人が多くありました。</p>	<p>33 あんしやうじ 安祥寺</p> <p>曹洞宗大須方松寺の末寺で、室暦5年(1755)に現地に移されました。境内には妙見堂、観音堂が建っています。御嶽山大権現、佐倉宗吾郎碑、二十二夜石があります。明治期に西尾地区の石仏が集められ、参道にまつられています。</p>	<p>34 ばていせき 馬蹄石</p> <p>「宇駒返り」の地にあり、日本武尊が東征の帰途、建輔種命をまつった内津を振り返った時についた馬の蹄跡といわれています。この時、馬の尾が西を向いたので西尾(さいお)の地名が生まれたという伝説もあります。</p>	<p>35 けんしやうじ 見性寺</p> <p>天文2年(1533)の創建も一時荒廃し、安永6年(1777)綱園玄提和尚が再興しました。大般若經600巻(市指定文化財)を所蔵しています。俳人横井也右と親交があり、也右筆の句碑などがあります。</p>	<p>36 うかいてい やまきち 鵜飼邸「舎」</p> <p>舎(やまきち)という屋号の商家で、大正の初め頃まで金勢丸(股栗)の製造販売や、味噌、たまごの醸造で栄えました。銅板の唐破風屋根と龍の彫物のある看板が2枚残されています。</p>
<p>29 かぎや あさば 神屋の秋葉さん</p> <p>戸口橋左側角のコンクリート製のほこらに観音像、弘法大師などがまつられています。敷地内には常夜灯が数基あり、地元御手洗集落の信仰が厚く、花が途絶えることがありません。どんど焼きもここで行われます。</p>	<p>30 こうほうだいしざう ぼとうかんのん 弘法大師座像と馬頭観音</p> <p>明照寺参道入口の左に弘法大師座像、右に馬頭観音があり、馬頭観音の台座には「馬車連中 上組 中組 下組 大正三年」と刻まれています。往来する荷馬車や乗合馬車の安全を願って建てられたものです。</p>	<p>31 はくおういなりじんしゃ 白翁稻荷神社</p> <p>明照寺近くの森にすむ白狐のお菊は、毎年、寺の大般若には白翁寺で参詣しておりました。ある夜、お菊は住職の夢枕に立ち、正一位の位を受けてほしいと願い、その後、寺にまつられたことが神社の始まりと伝えられています。</p>	<p>32 めいしやうじ 明照寺</p> <p>正保年間(1644-1647)創建の開法山明照庵を元文4年(1739)に改称しました。参道には約70体の地藏と三十三か所観音などの石仏がまつられています。近年、光明院から移設した石仏等もまつられています。*県指定文化財</p>	<p>37 うつつじんしゃでん 内々神社社殿</p> <p>社殿は、文化年間(1804-1817)に、信州諏訪の名工立川一族の手によって建てられたものです。構造は、本殿と拝殿を合の間で結ぶ権現造り、社殿の彫刻も併せ、近世から移設した石仏等もまつられています。*県指定文化財</p>	<p>38 うつつじんしゃいえん 内々神社庭園</p> <p>作庭時期は不明ですが、回遊式林泉型庭園で、南北朝時代の名僧夢窓疎石(1275-1351)の作庭ともいわれています。裏山の景色を借景現造り、社殿の彫刻も併せ、近世から移設した石仏等に配置されています。*県指定文化財</p>	<p>39 みやうけんじ 妙見寺</p> <p>嘉暦年間(1326-1328)密蔵院開山慈妙上人により、内々神社の神宮寺として創建されました。妙見菩薩が本尊で、現在の本堂は元の護摩堂で、信州諏訪の立川一族に学んだ野村作十郎らにより建てられました。</p>	<p>40 うつつとらう どうりょう 内津峠の道標</p> <p>県境付近にあり、旧国道19号線から多治見市の廿原(つづはら)へ向かう三叉路の角にあります。自然石に「右 廿原道」「左 江戸 善光寺道」と刻まれ、善光寺道とも呼ばれた下街道の貴重な道標の一つといえます。</p>



A じょういけいかいこひ
地蔵池懐古碑

昭和33年に改修されるまでこの辺りを流れていた地蔵川は、池のように広がり「地蔵池」とよばれていました。地蔵ヶ池公園内にある「地蔵池懐古碑」には、醍醐在勝川村繁村の池で、文永年間(1264-1275)に池中から地蔵尊が発見され、池辺に地蔵寺(現在は大和通に移転)を建立したことが刻まれています。

所要時間
約1時間30分
距離
約7.1 km

D さかしたじんじま
坂下神社

文禄元年(1592)に創建された和泉の八幡社と一色の神社を昭和35年(1960)に神明神社境内に合祀して坂下神社と改称されたものです。本殿の右手に改築記念碑があり、現在の社殿は昭和48年(1973)10月に改築されたもので、境内には津島社・春日社などもまつられています。参道の常夜灯も趣があります。

C かいじてんのうじゅんこう かすがい
明治天皇巡幸と春日井

明治天皇が明治13年(1880)6月、京都巡幸の途上、下街道を通られ、30日には内津の長谷川定七家の離れ「清流台」で小休憩。坂下の黒書寺で昼食、鳥居松の飯田重蔵家の離れ(現在の郷土館)で小休憩されました。それぞれの場所に石の標柱が建てられ、昭和33年(1958)に市の史跡に指定されています。

B ちゅうおうせん かちがわえきまか
中央線と勝川駅赤レンガのモニュメント

明治33年(1900)7月25日名古屋～多治見間に中央線が開通しました。途中の駅は、十種・勝川・高蔵寺の3か所のみで、当初は、1日4往復の運行でした。勝川駅の旧ホームは、赤レンガのイギリシ積みで作られていました。駅高架化の後、当時の面影を残す赤レンガでつくられたモニュメントが駅前の一画に設けられました。



5 はちまんしゃ かしかい **八幡社(柏井)** 下条村・上条村・松戸村・中切村の総鎮守で、寛文11年(1671)に現在地に遷座しました。元禄12年(1699)社殿再建の棟札があります。大正3年(1914)に宇前田の八幡社と字北の神明社を合祀しました。

6 おわりこりきりょうどう なごやしじょうすいどう **尾張広域緑道/名古屋水上水道** 下街道と斜めに交差する道は尾張広域緑道で、桜並木は春の風物詩となっています。緑道の下には大正3年(1914)9月給水開始の名古屋川水上水道が埋設されており、木曾川から水を引き八田町の沈殿池を経て名古屋へ送られています。

7 こうしんどう けいりんじ **庚申堂と桂林寺** 庚申堂(庚申寺)の本尊は青面金剛童子で、左手の観音堂に十一面観音像など26基が安置されています。寛文11年(1671)に入寂した上条村泰岳寺の蓮禪和尚が、現在庚申堂の少し東にある桂林寺とともに建立しました。

8 じげんじ **慈眼寺** 市内唯一の黄蘗宗の寺で、尾張藩主の招きで現在の小牧市に開山したが廃寺となり、その後当地で宝永6年(1709)に中興されました。山門は宗派独特の建築様式で、境内には他に、鐘樓門、地蔵堂、弘法堂、稲荷社などがあります。

9 かすがいりつぎょうどかん **春日井市立郷土館** 酒造業飯田家の離れで、江戸時代末期に建てられました。中庭に市内にあった道標や横井也右の句碑があります。昭和48年(1973)に郷土館として開館しました。毎月第3土曜日9~12時に公開しています。*建物内立入不可

10 かんのかんどう とりいまつ **観音堂(鳥居松)** 堂内に大正13年(1924)馬車組合が建立した馬頭観音や33体の仏が建てられ、その右側に8体の石仏がまつられています。敷地内には飯田重蔵(初代と二代)の石碑2基と下街道の案内板があります。

11 あきはしゃ **秋葉社** 犬山城主成瀬氏の家臣木村家に伝わる三尺坊大権現まつる秋葉神社です。2本あった樹齡300年ほどの大杉が第2次世界大戦中に軍用船向けに切られた時、根株の空洞に蛇が棲んでいたので龍神とまつったそうです。

12 だいせんじかんいすいどうすいけいんあと **大泉寺簡易水道水源井跡** 「大泉寺簡易水道水源井跡」と彫られた石柱が立っています。昭和32年(1957)から昭和57年(1982)まで、この地域の住民に大切な水を供給した歴史を知ることができ、この清水の上に建てられたといわれています。*市指定文化財

13 おんたけじんじや **御嶽神社** 参道を進むと本殿と舞台があり、並んで覚明霊神など30基ほどの霊神や二十二夜の碑があります。昭和32年(1957)から昭和57年(1982)まで、この地域の住民に大切な水を供給した歴史を知ることができ、この清水の上に建てられたといわれています。*市指定文化財

14 しりひや じせう **尻冷し地蔵** 正保4年(1647)の刻字がある市内最古といわれる石の地蔵で、台座の下から清水が湧き、常に濡れていたことからその名がつけられました。討たれ直前にここで喉を潤した武士をしのび、この清水の上に建てられたといわれています。*市指定文化財

15 さかしたごてんあと **坂下御殿趾** 尾張藩主義直(源敬公)が鷹狩りの拠点とした場所で、平成8年(1996)に整備されました。当時の井戸が残っているほか、公200年祭記念の灯笼「源敬公坂下御殿趾」の石碑があります。

16 さかしたふだ つじあと **坂下札の辻跡** 江戸時代「札の辻」のあった場所に平成12年(2000)まちおこしの一環として立札が復元されました。尾張藩が宿場を整備するために出した「坂下新町免状」といわれるもので、「坂下」の語源といわれています。